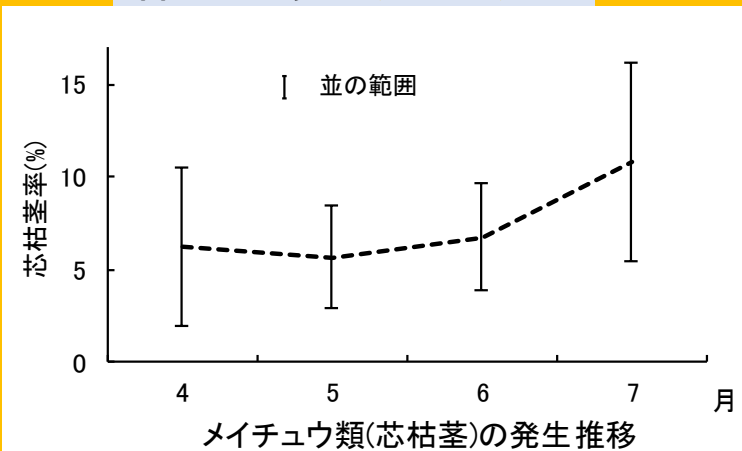


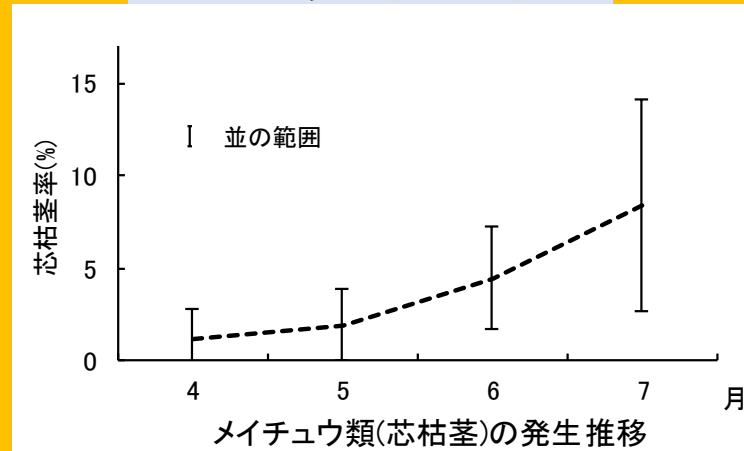
南大東島 芯枯莖率調査結果(作型/季節別) 2012年～2018年

春シーズン

株出ほ場(4月～7月)

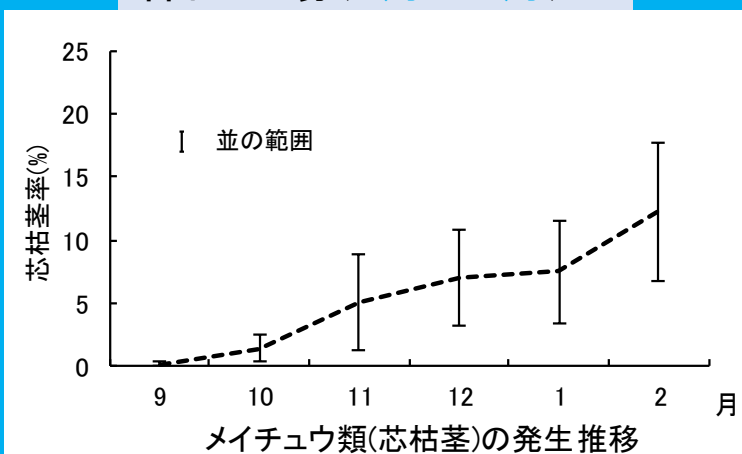


春植ほ場(4月～7月)

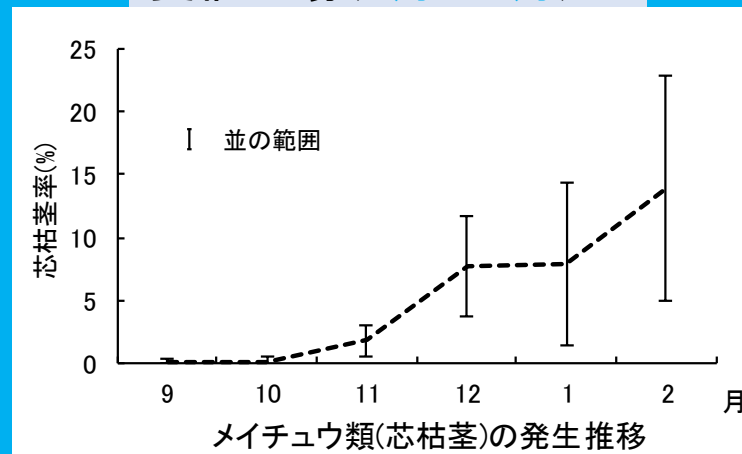


夏シーズン

株出ほ場(9月～2月)

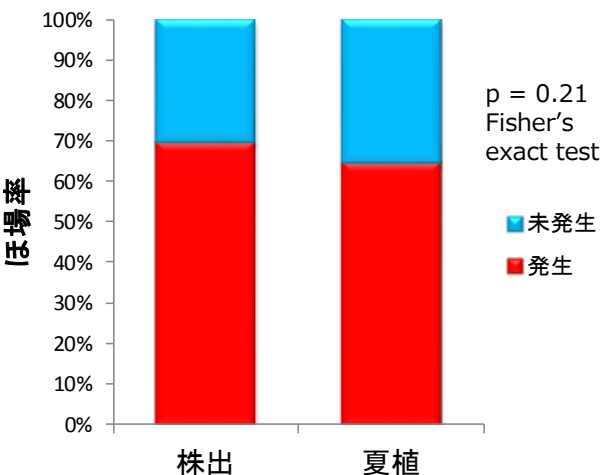
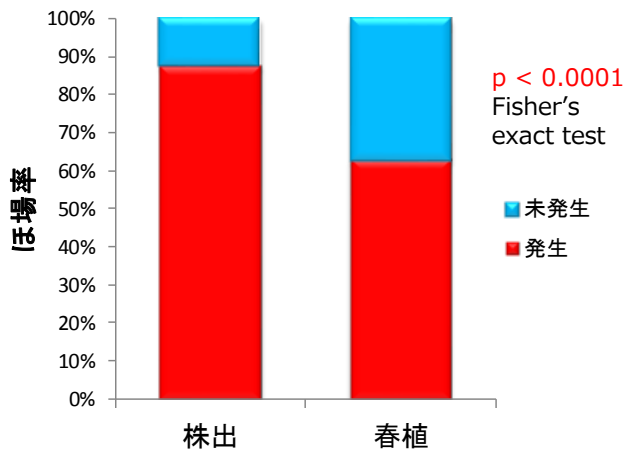


夏植ほ場(9月～2月)

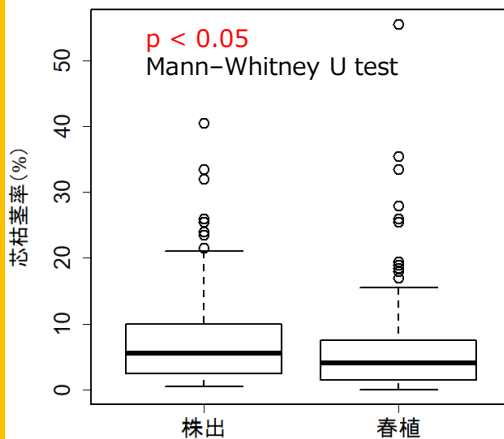


南大東島 芯枯茎率調査結果(作型/季節別) 2012年~2018年

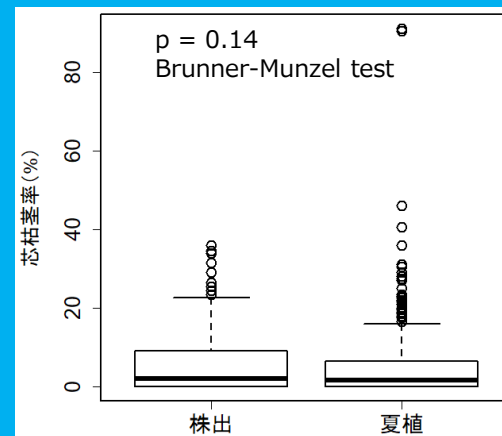
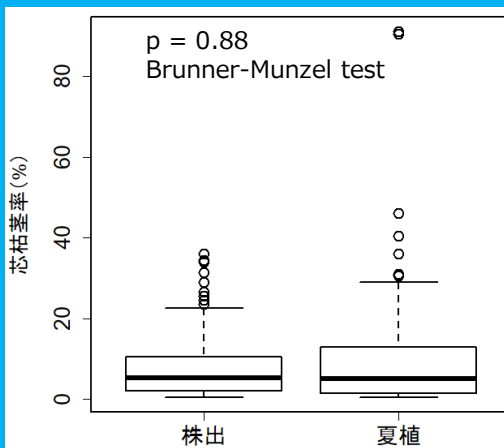
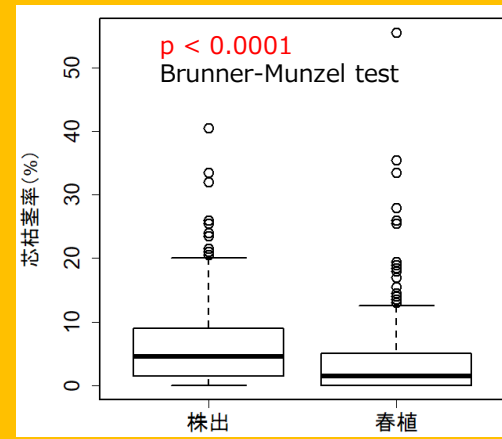
発生ほ場率の比較



芯枯茎率の比較 ※発生ほ場のみ(0データ除外)



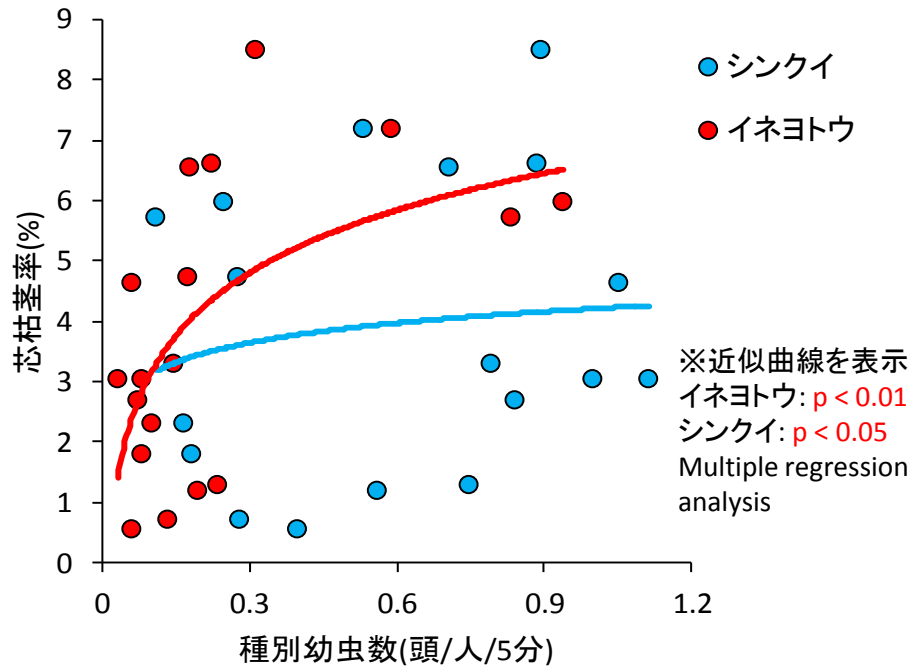
芯枯茎率の比較 ※全調査ほ場



・春植ほ場は株出ほ場よりも芯枯茎率が平均2.4%低い(夏場は作型間で差なし)

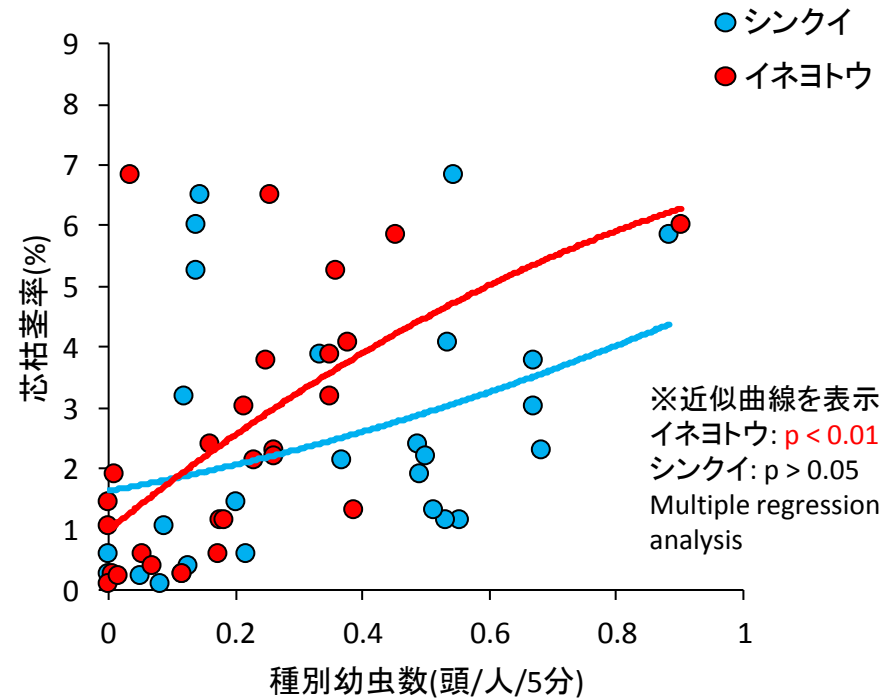
沖縄本島 芯枯茎率調査結果 各種幼虫発生量との関係 2014年4月～2018年1月(株出:3月～6月、夏植:9月～2月)

株出ほ場



- ・メイチュウ類幼虫が増えると芯枯茎率も増える可能性が高い
- ・特にイネヨトウ幼虫の場合は少数(0.3頭程度)でも芯枯茎を量産しやすいので、発生が見られたら早い段階で防除することが推奨される

夏植ほ場

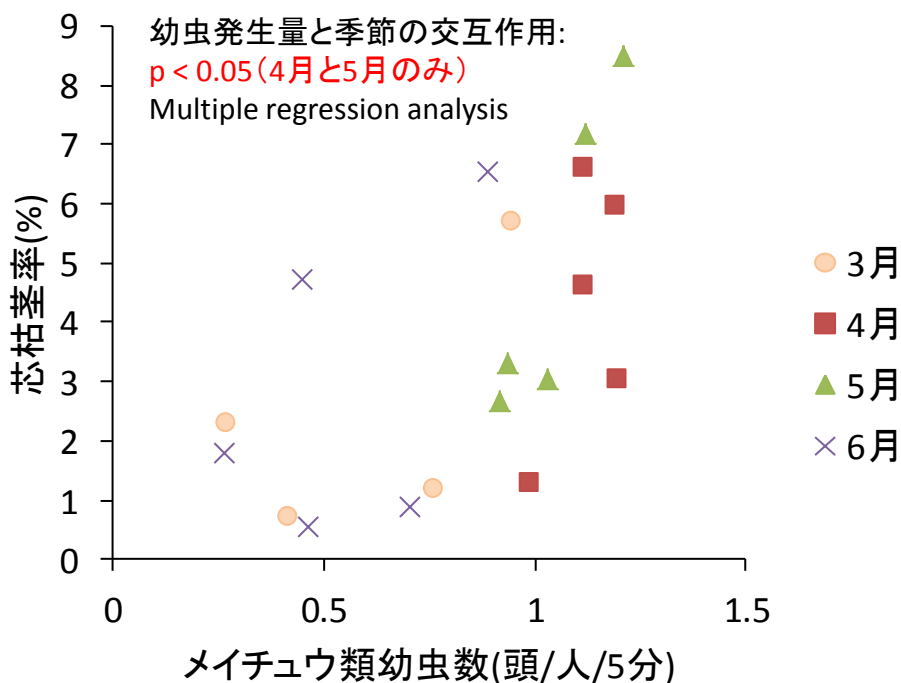


- ・イネヨトウ幼虫が芯枯の主な原因であり、多発生時には防除が必要である
- ・シンクイ幼虫と芯枯の関係は不明確だが、幼虫による食害の影響は小さくないように見える

沖縄本島 芯枯茎率調査結果 季節的な傾向

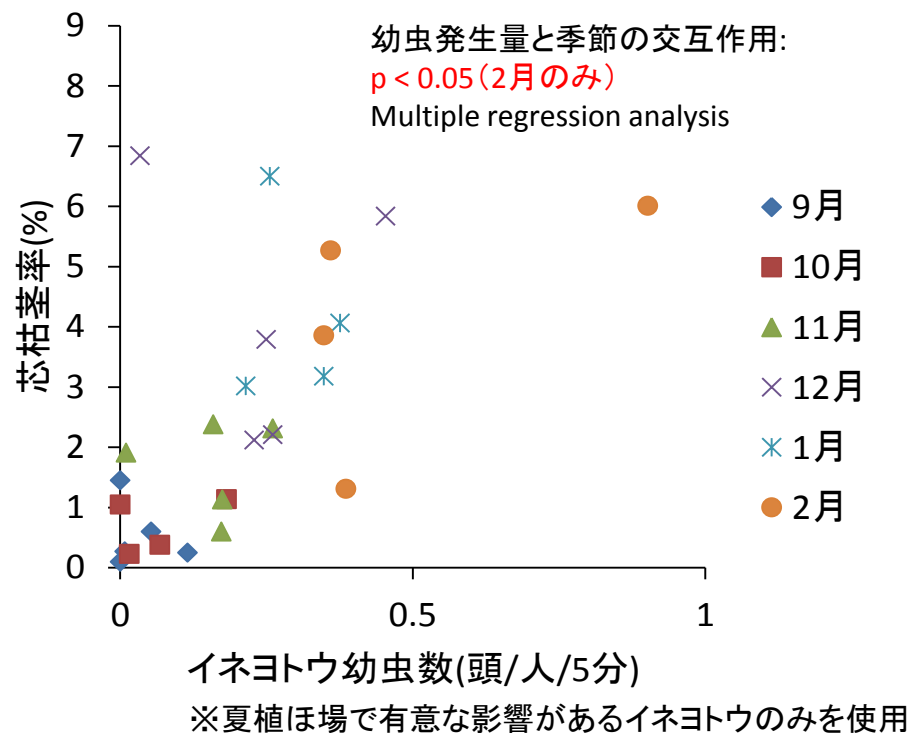
2014年4月～2018年1月（株出：3月～6月、夏植：9月～2月）

株出ほ場



・4月～5月はメイチュウ類幼虫数が多くなり(0.8頭以上)、芯枯茎が急増する可能性があるため、3月～4月に薬剤散布することが推奨される

夏植ほ場



・幼虫の活動による芯枯への影響は2月に特に大きい
 ・芯枯株率が高い時期は毎年12月以降に集中しているため、少なくとも12月には薬剤散布することが推奨される